

「おんぷのまちプロジェクト」の活動を見学しました。



「おんぷのまちプロジェクト」制作の「おんぷのまちのものがたり3部作」の三作目、「やすみちゃんとあかちゃん」が完成し、府中公民館人権講演会で、お披露目の運びとなりました。以下、同日のプログラムです。

令和7年2月22日（日）

府中公民館人権講演会

第1部「子どもが輝くシンポジウム」

【シンポジスト】小出一紀さん（こんごう保育園園長）、奥金美さん（元府中小学校長）  
小川博文さん（元府中町人権推進室長）

第2部「いのちをつなぐ歌と紙芝居」

～おんぷのまちのものがたり～3部作上演

【声の出演】中村由利江さん、藤丸範子さん、河野寛さん

【演奏・歌】ヒューマンソンググループ「ザ・わたしたち」

「おんぷのまちのものがたり」の主人公は、  
おんぷのまちの住人、「らーぼう」と「やすみちゃん」

第1作では、歌の大好きな住民たちが、歌うことを通し、

- ・一人ひとりの人間（一つひとつの音）は違うこと、
- ・違うものが会って「生きてゆく」こと、  
出会うからこそ、素敵な物語が生まれること  
（素敵な歌が奏でられること）



らーぼう & やすみちゃん

第2作では、らーぼうのおじいちゃんの死を通し、

- ・人はいつかこの世を去ること (永遠の別れ)
- ・人は、たとえこの世を去っても、大切な人の心には残り、見守っていてくれること

が、語られています。そして、第3作目では、

- ・やすみちゃんの家、あかちゃんが生まれること
- ・命の循環の中、やすみちゃんたち（人）は成長していく、ということ

が、デジタル紙芝居、生のナレーション、歌、演奏を通し、小さな子どもにもよく分かるよう、楽しく、温かく、描かれていました。



第3作 やすみちゃんとあかちゃん



素敵なナレーション



紙芝居に見入るお子さん



「ザ・わたしたち」の歌と手話  
来場者も歌と手話に参加しました。

お披露目に先立ち行われたシンポジウムでは、平成24年に府中町で起こった悲しい出来事（親の虐待による子どもの死亡事件）のこと、そのような背景・社会変化の中、「三つ子の魂百まで」と、未就学児からの人権教育を考えるようになられた、府中町の教育者、行政、「おんぷのまちプロジェクト」及び協力者の皆さんの出会いと、その後12年間の取り組みなどについて、お話がありました。

### 「おんぷのまちのものがたり」の誕生物語

14年前(2011年)、当時の府中町人権推進室長の言葉がきっかけでした。「府中町で幼児向け人権啓発紙芝居事業を始めたい。」町内7か所の保育園から巡回紙芝居がはじまりました。(現在は13園巡演しています。)

同時に、創作紙芝居にも取り組みはじめました。

☆ひとりひとり大切な命

☆みんな違ってみんないい

☆歌が大好きな助けあいの町

テーマは決まったものの、お話の展開に悩む日々でした。

その時、「歌はね(音程)と(リズム)と(息つき)よ。」とすてきな助言がありました。(もちろん強弱や情感も)

そこで、四分音符(らーぼう)と四分休符(やすみちゃん)の主人公が誕生しました。

さて、問題は絵(イラスト)です。弱気になっていると「つの(角)はどうですか？」のアドバイス。「らーぼう一家」「やすみちゃん一家」「おんぷ保育園のとおん先生と園児たち」の人々がそろいました。

自然豊かなおんぷのまちで「生まれる」「生きてゆく」「永遠の別れ」の「ものがたり3部作」が完成しました。ご協力・ご支援くださった多くの皆様に感謝申し上げます。

そして、これからもこの府中町で子どもたちとともにあたたかく、助け合って暮らせていけたらと願っています。

～感謝をこめて:

原作者 ゆめこ(中村由利江)～





歌  
♪おんぷのまちのものがたり  
作詞：奥田祐子  
作曲：松本幸子



「おんぷのまちのものがたり」については、  
どうぞ以下もご覧ください。

動画  
第一作  
おんぷのまちのものがたり

昨年のレポート  
<https://mzaidan.mazda.co.jp/news/2024/SJ/no09.pdf>  
(上記動画を含みます)



「おんぷのまちプロジェクト」及び関係者の皆さま、3部作のお披露目、本当にお疲れ様でした。

そして、素晴らしい活動を見学させていただき、ありがとうございました！

(竹岡)